

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

東京だけ元気でいいか、地方で見過ごされてきた魅力を引き出す

大橋 洋治 (ANAホールディングス相談役)

- 2020年を迎え、7月に東京五輪・パラリンピックが開幕する。この世界最大のスポーツの祭典には世界中から1000万人もの人が訪れ、大きな経済波及効果をもたらすとされている。しばらくの間、世の中の関心が東京に集中して、様々な産業が盛り上がりを見せることだろう。
- だが、ふっと冷静になって五輪後の日本のありようを考えてみると、東京ばかりが元気で、地方が蚊帳の外に置かれてしまうような状態は本当にいいのかと心配になる。その時、東京だけに頼らず地方も活力を取り戻しておくことは、国力の維持向上という観点で非常に重要なテーマだ。
- 地方には本来、大きなことをなし遂げる力が備わっている。そこに生きる人々もまた、並々ならぬ情熱秘めている。地方というページを一枚めくると、見過ごされてきた多くの魅力があふれていることに気づく。地方の町や人に活力があつてこそ、これからの東京の繁栄もある。

(参考:「日経ビジネス」2019年12月23・30日号)

経営者のための危機管理

「危うい会社」3つのポイント

赤間 裕弥 (帝国データバンク部長)

- 「経理部長や財務部長が突然退職、または支払い日に社内にはないなら要注意」
- 「取引先の社長や従業員が発信するSNS上の情報は意外に見逃せない」
現場を見ること以外にもSNS(交流サイト)で発信される情報がある。例えば、社員がSNSにぼろっと内情を漏らすことがある。「うちの会社は実はこうなんだ」といったSNSの書き込みが日曜の夜とかに意外とある。
- 「ビジネスのはやり廃りは激しい。時流をいつも念頭に」
その1つが人手不足である。現在はネットで簡単に求人情報を比較できる。必然的に給料の高い会社に人材は流れる。また、経営戦略が時代の潮流と一致しているかどうか。老舗からベンチャーまで、会社の状況を判断するうえでは重要な視点だ。

(参考:「週刊東洋経済」:2019年12月14日号)

経営者のための社会学

「ソサエティ5・0」の理想社会

土屋 俊博 (内閣府 政策統括官)

- 第5期科学技術基本計画のなかで、将来の理想的な社会像として「ソサエティ5・0」が提起されました。「サイバー空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」。狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな社会という意味です。
- イメージとしては、「IOTですべての人とモノがつながり、情報共有のもとに新たな価値が生まれる社会」、「IT技術により求める情報を自動で検索・分析してくれる社会」「少子高齢化、地方の過疎化などをイノベーションによる克服する社会」「ロボットや自動運転などの技術により人の可能性が広がる社会」などと表現できよう。このように「ソサエティ5・0」は、理想社会を実現するための欠かせない概念です。

(参考:「戦略経営者」2020年1月号)

古典に学ぶ

客観的人生観

(解説) 例えば、学者ならば学者としての本分を尽し、宗教家ならば宗教家としての職責をまっとうし、各自その能力のあらん限りを傾けてこれに心を入れる。その人々の心情を察するに、むしろ自己のためというよりは君父のため、社会のためという観念という方が勝っている。すなわち君父や社会を主とし、自己の言葉を賓と心得ているので、今はこれを客観的人生観とを各自でつくるのである。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)